

「保健医療科学」
第68巻 第2号 予告

特集：健康危機管理—産学官連携を通じて次の災害に備えるために—（仮題）

動き始めた産業界の危機管理調整システム—危機感が原動力となる訓練・演習の変化—（仮題）	片岡克己, 他
米国における原子力災害対策・対応におけるICS、医学部教育における人材育成（仮題）	永田高志
医療機関における危機管理—ICS導入・運用の現状と課題—（仮題）	富尾淳
一般社団法人Healthcare BCP コンソーシアムを拠点として守る災害時の命と健康（仮題）	中尾博之
弁護士会の考える被災者支援と事業継続への平時の備え（仮題）	津久井進
保健所が変わる—“all hazards”対応の危機管理調整システム—（仮題）	古屋好美
現状を踏まえた学術分野における健康危機対応の課題と展望（仮題）	中瀬克己, 他
現状を踏まえた国や地方自治体における健康危機管理対応の課題と展望（仮題）	長谷川学, 他
科学的検証可能な産学官協働の健康危機管理体制への展望（仮題）	武村真治

編 集 後 記

「保健医療科学」は公衆衛生分野の最新のトピックに関する正確な知識・情報を伝達することを目的として、年6回刊行されている。本誌の読者は主に「国内」の保健医療福祉関係者であるが、国内だけでなく「国外」にも発信しようと企画したのが本号の全文英文の特集である。テーマは、まさに本誌の目的の「日本の公衆衛生分野の最新のトピック」である。「2019」とあるのは、今後2020年、2021年と、年6回のうちの1回を全文英文で日本の最新の動向を国際発信していこうという編集委員会の「意志」の表れである。

本号で取り上げたトピックは、母子保健、高齢者歯科保健、環境保健、医療経済評価、介護、難病、患者安全である。一見、何の関係もないようにみえるが、共通点があるとすれば、それは「わが国と国立保健医療科学院の最新の取り組みを国際発信して貢献したい」という筆者らの「意志」である。

編集委員会の意志と著者らの意志、それらは国境を越えて伝わるであろうか？そして一見何の関係もないようにみえるトピックたちから何かを見出していただけであろうか？

（政策技術評価研究部 武村真治）